

*横須賀を中心に近隣のみどころを紹介するコーナーです

よこすか Discovery

ディスカバリー

第29回 大津の古墳群をめぐり 古の東海道を探す

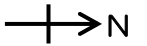
大津の吉井・池田地区には、市内最大の規模を持つ大塚古墳をはじめ、古墳時代・奈良時代・平安時代などの多くの遺跡が分布しています。それら古墳群・遺跡跡をめぐり、鎌倉から走水を経由して上総に続き、日本武尊も通ったといわれる古東海道を探します。(距離約8km、所要時間:約3.5時間)



大塚復元古墳

① 大津古墳群(市指定文化財)

東京湾側に突出した尾根上に連なる3基で構成され、三浦半島の東京湾北岸で確認された唯一の古墳。6世紀後葉以降、大津に新たな拠点が出現したことを示唆し「古東海道」形成過程を示す重要な遺跡。



② 三足谷(みたしやと)遺跡 (現在は住宅地)

房総から平作川中流域に進出するための回廊を守る防御的な役割をもつ遺跡。弥生時代後半から古墳時代前期に住居が5~6軒程度存在した。

三浦半島最古の社ではないかといわれる。また日本武尊が東征のとき、勝利祈願したと伝えられ、源頼朝、北条義時なども武運を祈って参拝したといわれる。



③ 大塚古墳群

前方後円墳2基、帆立貝形前方後円墳1基、円墳3基、箱式石棺墓1基からなる。現在は近接地に復元古墳が見られる。

④ 大餅(おおもち)遺跡 (現在は住宅地)

古久里浜湾の湾奥における中心的集落。

⑤ 上吉井南遺跡 (現在は住宅地)

古墳時代前期、平安時代の集落遺跡。

⑥ 上吉井北遺跡 (現在は住宅地)

奈良時代の集落遺跡。

※住宅地を通るときは、周辺に配慮して歩きましょう。コースの一部は道が狭く標識も不完全な場所を通ります。充分ご注意ください。

⑦ 矢ノ津坂(やのつさか)遺跡

東京湾に面した丘陵上に立地した弥生時代から古墳時代にかけての遺跡。特徴は平作川流域から東京湾へ、さらに浦賀湾へと抜ける道の両方面を俯瞰できる位置の丘陵を利用し、集落を営んでいることにある。



安房口神社から矢の津坂遺跡までの道路から